

平成 26 年度第 4 回 流山市環境基本計画策定部会 議事録

平成 26 年 6 月 16 日 (月) 13 時 30 分開会 16 時 30 分閉会

出席委員：

吉永明弘部会長、和田登志子副部会長、新保國弘審議会会長、  
秋元五郎委員、中大路早智江委員

事務局（環境政策・放射能対策課）：

染谷課長、遠藤副主査、小山内主事

リジオナル・プランニング・チーム（コンサルタント）1 名（内藤）

【計画案について】

発言者	要旨
事務局	(計画素案の修正等について説明)
部会長	審議会前の最後の部会なので、全体を通してどの部分についてでもご意見を。
副部会長	1 頁、19～26 頁にある 3 つの行動計画の記述の順番について、対応する基本目標の順に統一されたい。
部会長	IV の構成や 1 頁図の箇条書きなども統一される。
事務局	基本目標の順にあわせて、共生、低炭素、循環型の順となるよう、1 頁の文と図、19 頁の文、20 頁の文、IV の構成を修正する。
副部会長	16 頁のグラフの説明で、冷蔵庫の消費電力のことだとわかるようにされたい。
事務局	2002 年度製の冷蔵庫、2011 年度製の冷蔵庫のように修正する。
部会長	同グラフのタイトルで、「405L」は「450L」の誤記。
事務局	修正する
委員	「401L～450L」と表記されたい。
事務局	修正する。
副部会長	リットルの記号は筆記体が一般的ではないか。4 頁の地図の方位記号は一般的なものか。
コンサル	リットルの筆記体はフォントの問題があり、活字体大文字がよく使われる。方位記号の形状に定めはなく、これば弊社がよく用いる形のものである。
全員	(現状のままで合意)
副部会長	22 頁の地図で、重点地区の色をはっきり区別できるように、また、凡例に重点地区を加えたい。
委員	この凡例は、市域のスケールからして、平野ではなく低地といったほうがわかりやすい。市域の地形なら標高 5 メートル、10 メートルで区分するのもわかりやすい。
コンサル	地図は国土地理院の土地条件図に基づくもので、土地の成因によって氾濫平野、自然堤防、谷底平野、台地といった分類がされている。この地形分類には、生物多様性の拠点と谷津などの関係を見せる意図がある。
副部会長	ここにある市野谷調整池や大堀川の写真は、工事前の古いものである。
課長	地図の出所は記載されたい。
委員	拠点の枠内にも、川や地形が見えたほうがよい。
部会長	凡例の変更をまとめると、台地、低地、自然堤防・堤防、河川となるか。
委員	生物多様性戦略に対して新たに情報を加えると、説明がしにくくなる。ここは戦略の紹介とし、他の情報は河川だけでよいと思う。もしくは、流域の分水嶺はあってもよいので、事務局で判断されたい。情報は河川課にあると思う。
事務局	写真は生物多様性戦略の引用であるが、どう考えるか。

部会長	戦略の紹介ならば、写真も生物多様性戦略策定当時のもので問題ないと思う。
事務局	地図を修正し、写真は策定当時のものである旨の注釈を加える。
副部会長	12 頁の 5R から 3R に変更したことの説明について、国にあわせたというよりも、もっと前向きの理由にしたほうがよいとの意見が出ていたように思う。
事務局	市民に浸透したからといった書き方を提案いただいたが、実際に定着したとは言い切れないため、現状を簡潔に記載している。
副部会長	全国の取組にあわせて市民が取り組みやすくするためではどうか。
全員	(賛成)
事務局	その旨で修正する。
副部会長	当時に 5R とした背景には、新たに定まった分別ルールを守ってもらいたいという意図があったので、その経緯についても伝えた方がよい。
部会長	ごみ分別の多様化に対応しというような文面になるか。
事務局	当時の状況を確認して検討する。
委員	さらにいえば、ごみの出し方の不備や路上喫煙も問題である。
委員	分別やポイ捨てしないことは、もうマナーではなくルールである。12 頁の 2 つめのところは、マナーとは書かずに、ルールを守るとしてはどうか。
副部会長	そこの 2 段目「進めると同時に、」は、「進め」でよい。
事務局	マナーやモラルが重要という意見が交わされたため、ルール・マナーと書いてみたが、いかがか。
全員	(マナーは書かず、ルールのみとすることで合意)
委員	「市野谷の森」を「おおたかの森」と呼んでいることに、活動団体から市野谷の森で重要な生物はオオタカだけではないという意見が出ている。16 頁の写真説明、21 頁の表中はそのように対応されたい。
事務局	「おおたかの森」の呼称を検討する。
副部会長	26 頁の市役所からの温室効果ガス排出量について、市の焼却炉で処理する市民のごみが増えたことが要因であることを説明しないと、好ましくない誤解をされるのではないか。
事務局	進捗状況の文面を検討する。
委員	25 頁と 26 頁は、文字が多くて見にくい印象がある。25 頁の市民の声を 26 頁の②に移して、(2) の見出しが 26 頁の最初にくるようにすれば、ひと目で見やすくなる。
事務局	市民の声は (1) (2) に共通する内容として 26 頁の最後に移し、21 頁、23 頁についても同様に、市民の声を③の後に移す形に修正してはどうか。
全員	(合意)
委員	14 頁の除染の写真は、できれば人が作業しているものがよい。
委員	アンケートの掲載については、審議会ではっきり示したほうがよい。
事務局	要約で掲載できないか検討しているが、内容がかなり多い。そのため別冊として、ホームページ等では計画書と並べて公表することを考えている。
事務局	(概要版の構成について説明)
部会長	この中で、まず施策体系と 3 つの実行計画は必要である。 話が戻るが、計画の対象のところでは、マナーをこのまま残した方がよい。
副部会長	計画書の 10 頁、12 頁の図が概要版にもあると市民に伝わりやすい。市民・事業者がやることがしっかり見えるように。市民・事業者へのお願いを最後の頁に示したい。
部会長	進捗管理、基本事項、課題は整理してコンパクトに。実行計画は小さくして、目玉となるような個別の取組、お願いを示す。実行計画を内側に入れるかたちも考えられる。
副部会長	実行計画を 1 頁目に示すのもよい。頁数が少ないので、写真が大きいとスペースがもったいない。
課長	概要版は様々な場面での説明用の資料となる。その際にはこの順番が説明しやすいと考えている。
委員	説明に配る場合、表紙には流山がわかるような写真があったほうがよい。

部会長	写真は環境像と関係するので、計画書と同じく利根運河のものがよい。
委員	緑、水、風土、森のまちに対応させて、4枚の組写真ではどうか。写真は提供できると思う。市民でも近隣市住民でも、流山市について知らないことも多いので、現状のイメージを伝えて、環境像の森のまちにつなげるのがよい。全体の流れとしては、この案しかないように思う。
委員	進捗管理ははぶいても、市民・事業者へのお願いをのせてはどうか。
委員	進捗管理は計画書では基本事項のなかにある。
課長	実効性について説明する場合に、進捗管理の記載は必要と考えている。
部会長	そうであれば、このままではよくわからないので、評価して改善するPDCAを回していくという旨を、かみ砕いて書いてはどうか。
委員	チャートにして、白書の公表と会議での審議も示してはどうか。基本目標に指標があり、評価シートで見ていることは重要なので、そのことも簡単に示したほうがよい。
副部会長	それらがホームページで見られることも重要である。ホームページの案内、たどり方もわかるようにされたい。
部会長	次に、審議会の答申について。
事務局	(説明)
委員	(審議会の会長として)資料の例では、福祉施策審議会のものが無駄なく、わかりやすくできている。基本計画に盛り込めなかったことなども、審議会の意見もきいて、付帯意見をつける。
事務局	付帯意見について、ご意見を。
部会長	他のセクションに対して、環境から注文をつけるようになるのが望ましい。本計画はその根拠となるものである。将来の他のプロジェクトに対して発言権を持つことが、ここで作ってきた計画の、ひとつの役立て方である。
委員	この計画をもとに、子どもや高齢者が理解できるものもつくってほしい。
副部会長	市民に向けた、実効性のある、教育版のようなものがほしい。

<部会の今後の日程>

未定、審議会の状況による

<審議会の今後の日程>

6月30日(月) 15時～ 委員会室